令和7年度　全国学力・学習状況調査の結果
京都市立安朱小学校

4月17日に本校6年生を対象に実施した「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語・算数・理科の3教科のテスト及び家庭での過ごし方や学習時間などを問う調査が実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果（国語・算数・理科）

国語・算数・理科のすべての教科において、平均正答率は全国平均を上回る結果となりました。

学習指導要領の領域の平均正答率の状況においても、ほぼすべての領域で全国平均を上回る結果がでており、偏りなく学習内容が定着していることがうかがえます。

国語科より

知識及び技能の「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱いに関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」、思考力・判断力・表現力等の「書くこと」「読むこと」の領域において、全国平均を上回りました。また、観点別の平均正答率を見ても全国の平均を上回っています。中でも、「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる」問題では、全国平均を大きく上回りました。問題形式別で見てみると、記述式の正答率が他の形式と比べて低いものの、府や全国平均より上回っていました。

一方、「話すこと・聞くこと」の領域は全国平均を少し下回る結果でした。「目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる」問題でしたが、選択肢の後半部分をしっかり読み切れなかったと考えられます。

今後の学習の中で、複数の資料等を見比べる経験を積み重ねることや、慌てずよく文章を読んで回答する経験をしていく必要があり、箇条書きで書かれた複数の情報をそのまま理解するだけではなく、情報と情報を関連付けたり、比べたりしながら文章に表すような学習を取り入れていきたいと考えています。

算数科より

「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」のすべての領域で全国平均を上回りました。また観点別の平均正答率においても全国平均を上回る結果でした。中でも「数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる」「『10%増量』の意味を解釈し、『増量後の量』が『増量前の量』の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる」「基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」問題では、全国平均を大きく上回りました。「記述式」においても、全て全国平均を上回りました。

一方、無回答率が、全国の平均より上回っていることが課題として挙げられます。「分数の加法について、共通する単位分数を見いだし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」問題では、正答率が高かったものの無回答率も高い結果でした。

今後の学習の中で、絵や図、式を用いて場面と関連付けて理解できるようにすることはもちろんのこと、言葉でも説明ができるように、図の中にキーワードを記入したり、説明文を書いたりする活動をより一層取り入れていきたいと考えています。また、複数の資料から取捨選択をして、自分の考えを述べていくということを、算数科だけでなく、社会科や他教科でも大切にし、各教科・領域で身につけた力を活用できるようにしていきたいと考えています。

理科より

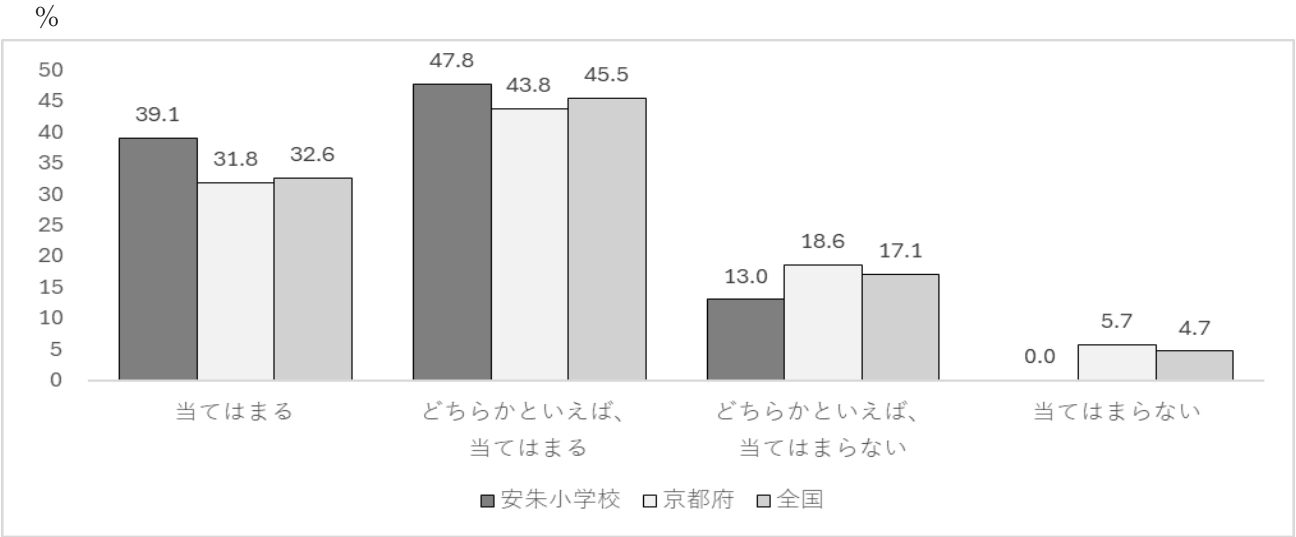
A区分「エネルギー」領域・「粒子」領域、B区分「生命」領域・「地球」領域のすべての領域において全国平均を上回る結果となりました。観点別の平均正答率においても全国平均を上回る結果でした。中でも、「乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身についているかどうかをみる」「水の温まり方について、問題に対するまとめを導きだす際、解決するための観察実験、の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる」問題では、全国平均を大きく上回りました。問題形式別で見てみると、記述式の正答率が他の形式と比べて下回るものの、府や全国平均よりは正答率が上回っていました。

一方、「赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかどうかをみる」「地球」を柱とする領域の問題では、京都府・全国の平均を下回る結果でした。結果となった事実とそこから分かること、実験を行う目的となる「問題」に対する答えを適切に整理して記述することに課題があることが考えられます。

今後の学習の中で、日常の学習においても、実験結果を記述する際に必要な事柄を整理し、一つ一つ確かめながら書く経験を多くもてるようにしていきたいと考えています。また、系統的な内容をつなげて学習し、一つ一つの内容を個別に覚えるだけではなく、生活場面と結び付けて考えることが大切だと考えています。

児童質問紙より

（質問番号13）「自分とちがう意見について考えるのは楽しいと思いますか」



「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合は86.9%となり、全国平均を上回っています。否定的に回答した本校の割合は、「どちらかといえば、当てはまらない」が13.0%「当てはまらない」が0%という結果でした。今後も探究型の授業展開の中で、児童の「知りたい」「考えたい」思いを支えるために、GIGA 端末や思考ツールを活用したり、友達と意見交換しながら考えを深める協働的な学びを取り入れたりしていきたいと考えています。

保護者の皆様へ

全国調査は、子ども達の学習状況を知り、子ども達の可能性をさらに伸ばし、課題を解決していくためのものです。結果が、学力の全てを表しているものではなく、順位を競うものでもありません。

学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今回の本校の結果を見ると、学習内容がしっかり定着しており、ご家庭での子ども達に対する積極的な関わりや指導・支援の成果が表れています。引き続き、子ども達の健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。